

Waste Reduction & Substance Management

廃棄物削減と化学物質管理

〈廃棄物削減活動〉

直接埋立廃棄物量

ゼロ達成

ゼロ・エミッション活動の実施

ジャトコでは環境マネジメントシステム(ISO14001)の廃棄物削減推進管理に「廃棄物のゼロ・エミッション」を組み込み、その達成に向けた取り組みを推進しています。その結果、2009年に日本国内の事業所では直接埋立廃棄物量を「ゼロ」にすることができました。海外においても直接埋立廃棄物量の削減に努めています。

■直接埋立廃棄物量の推移(日本国内)



再資源化率

100%達成

分別の徹底で
廃棄物を再資源化

ゼロ・エミッションの一環として、ジャトコでは廃棄物などの焼却処分や埋立処分を打ち切り、サーマルリサイクル(燃料化)やマテリアルリサイクル(再生利用)などを推進しています。また、廃棄物を有効な資源として活用できるよう、分別を徹底しています。この活動により、日本国内の事業所では再資源化率100%を達成することができました。

2021年度の廃棄物総量

65.5%削減

(2006年度比)

全員参加による
廃棄物削減活動

ジャトコ従業員は常に「削減できないか、再利用できないか、他に使えないか」を考え、廃棄物を減らす工夫をしています。どうしても捨てざるを得ないものは再資源化しやすいように分別基準を決めて廃棄しています。

各事業所では、廃棄物総量削減の目標を立て、各職場が実施した取り組みのアイデアを登録することで、廃棄物削減情報の共有化と職場ごとのモチベーションの向上を図っています。

〈化学物質の管理活動〉

2021年度のVOC排出量

99%削減

(2006年度比)

揮発性有機化合物の管理

揮発性有機化合物(VOC)対策は、一般社団法人日本自動車部品工業会(JAPIA)の行動計画に基づき、2010年度までに全VOC排出量を30%削減(2006年度比)することを目標とした活動を実施しました。その結果、2006年度までに98%削減することができ、2010年度には99%を達成、2021年度も99%を削減しました。

地下水汚染

土壌・地下水汚染対策として、有機塩素系溶剤の使用を全廃し、現在は過去の有機塩素系溶剤の使用履歴と環境への影響をモニタリングしています。

2021年度の有害大気汚染3物質排出量

ゼロ維持

有害大気汚染3物質の削減

有害大気汚染3物質*1の排出量については、2006年度に100%削減を達成し、2021年度も維持しています。

PRTR*2対象物質の管理

ジャトコが取り扱う、PRTR対象化学物質の国内生産拠点合計の排出量と移動量は下表の通りです。

■PRTR対象物質の取扱量と排出量(2021年度)

区分	化学物質名	取扱量	排出量			移動量 廃棄物
			大気	水質	土壌	
特定第一種	ダイオキシン	0	20.6	0	0	0
	ベンゼン	0	0	0	0	0
第一種	エチルベンゼン	1,500	4.9	0	0	0
	キシレン	58,800	13.1	0	0	0
	1,2,4-トリメチルベンゼン	61,400	0.1	0	0	0
	1,3,5-トリメチルベンゼン	0	0	0	0	0
	ノルマル-ヘキサン	0	0	0	0	0
	トルエン	21,700	379	0	0	0

単位:kg(ダイオキシン類はmg-TEQ/Nm³)

*1 有害大気汚染3物質:ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン

*2 PRTR: Pollutant Release and Transfer Registerの略。特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律